

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 以下は、自分たちの所属する研究室用のコーヒー豆を買いに来た大学生AとBの会話である。この文章を読み、下の問い(問1~10)に答えよ。(配点 28)

- A : あれ、そっちのコーヒー買うの? 「フェアトレード」って書いてあるけど、ちょっと高いんじゃない。研究室のみんなに怒られないかな。
- B : フェアトレードは、途上国で貧困に㉔苦しむ人々を貿易によって援助する取組だから、少し高くなるけど、みんな納得してくれるんじゃないの?
- A : 安い方が喜ばれない? それに、援助は㉕寄付でやればいいんじゃない?
- B : 貿易の方が、息の長い援助には都合がいいんだよ。フェアトレードでは、農家の㉖経済的自立につながるように、コーヒーの生産方法を改善したり、価格交渉のノウハウを伝えたりといったことが、継続的に行われてるんだよ。
- A : なるほどね。でも、「フェア」って言うけど、㉗市場での取引にはルールがあるでしょう。それを破らなければ㉘公正って考えていいんじゃないの?
- B : 今の市場競争にまかせたままだと、値段を下げるのが重視されて、コーヒー生産者に適正な対価が払われないことがあるんだって。それで、㉙日々の生活に困る人も出てきちゃう。それって、公正って言えるかな?
- A : 価格競争のために、生産者が犠牲になっているって言うこと? そういえば、コストを削減するために、自然環境が犠牲にされることもあるって聞くしね。
- B : その点、フェアトレードでは㉚環境にも配慮して、生産の持続性を守ってるんだよ。ただ、フェアトレードが広がっていくには、消費者が貿易を通じた支援というやり方に共感して、商品の選び方を見直さないといけないけど。
- A : つまり、値段だけじゃなくて、商品がどう作られてきたのかにも配慮しようって言うんだね。安さにも惹かれるけど……。㉛悩ましい選択だな。
- B : 何を買うかで、㉜遠い国の人々の生活をもっとよくできるかもしれないんだよ。何気ない日々の行動にも、責任が伴うと思うんだ。
- A : じゃあ、今回はフェアトレード・コーヒーを買ってみる? みんなでコーヒーを飲みながら、途上国の生産者のことについて、一緒に考えてみようか。

倫 理

問 1 下線部②に関して、苦しむ人々に対する支援に関する思想や実践の説明として
適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① シュヴァイツァーは、生命への畏敬の念に基づいて、アフリカの地で医療と布教活動を通して、苦しむ人々への支援を続けた。
- ② 国境なき医師団は、世界各地の紛争地域や災害地で、けがや病気に苦しむ人々に対して、緊急医療支援活動を行っている。
- ③ 片山潜は、仏教の慈悲の精神に基づいて社会主義運動に携わり、貧困に苦しむ人々への支援や、労働者の地位の向上に努めた。
- ④ 国連難民高等弁務官事務所は、紛争や飢餓のために他国に逃れ、生命の危機にさらされて苦しんでいる難民に対する支援に取り組んでいる。
- ⑤ マザー・テレサは、「最大の罪は愛と憐れみをもたないことです」と述べ、修道女として、苦しむ人々への支援に生涯を捧げた。

倫理

問 2 下線部①に関して、次ページの図は人がどのような寄付を選択するか、また、その選択にどの程度納得するかについて調べた実験の結果である。その手順を説明した次の文章を読み、図から読み取れることとして適当でないものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 2

実験の手順

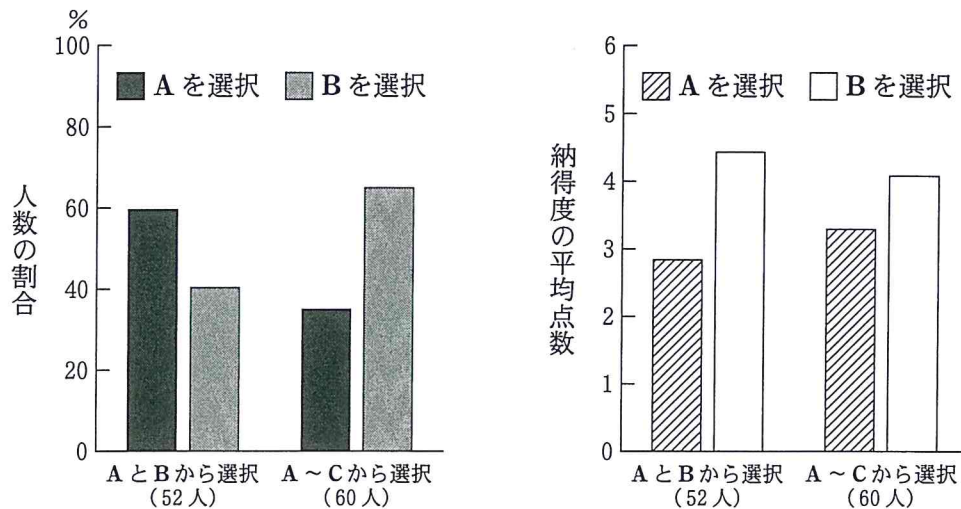
実験には 112 名の大学生が参加した。参加者は「貧困と重い病気に苦しみながらも子どもを育てる母親を支援するため、あなたは寄付をします」と言われる。寄付には支援する人数と金額に応じて A～C のプランがある。

- A：メゼレという名前の 20 歳の母親が治療を受けられるように、2 万円を寄付する。
 - B：3 人の 20 代の母親が治療を受けられるように、6 万円を寄付する。
 - C：2 人の 20 代の母親が治療を受けられるように、7 万円を寄付する。
- (A のプランにのみ、母親の名前が示され、顔写真が添付されている。)

参加者のうち 52 名には、A と B の二つの選択肢が示される。残りの 60 名には、A～C の三つの選択肢が示される。参加者は、実際に寄付するつもりになってプランを一つだけ選択する。その後で「今の自分の選択にどれくらい納得していますか？」という質問に、「まったく納得していない」を 0 点、「とても納得している」を 6 点とし、その間で自分の選択に納得した程度を 7 段階の点数で答えた。この点数を参加者の納得度とした。

図は各プランを選択した人数の割合と、納得度の平均点数を表す。

図 各プランを選択した人数の割合と納得度の平均点数



(注) A～Cの選択肢を示された参加者で、Cを選択した人はいなかった。

Rubalteli, E., & Agnoli, S., 'The emotional cost of charitable donations', *Cognition and Emotion*, 2012 より作成。

- ① AとBから選択した場合、寄付金額が低く、受け取る相手の顔と名前が分かるプランを選んだ人の方が人数の割合は高い。しかし、寄付金額が高く、受け取る人数が多いプランを選んだ人より選択への納得度は低い。
- ② A～Cから選択した場合、一人あたりに換算した寄付金額が最も高いプランを選んだ人はおらず、一人あたりの金額が同じなら、寄付を受け取る人数が多いプランの方が、選んだ人数の割合もそのときの納得度も高い。
- ③ 選択肢がAとBだけのとき、寄付金額の低いプランを選んだ人の方が人数の割合は高いが、納得度は寄付金額の高いプランを選んだ人より低い。選択肢が一つ増えると、割合の高さも納得度の高さもAとBで逆転する。
- ④ 選択肢がAとBだけのとき、寄付金額は高いが受け取る人数が3人のプランを選んだ人は、寄付金額が低く受け取る人数が1人のプランを選んだ人より納得度は高い。選択肢が一つ増えても、この傾向は変わらない。

倫理

問 3 下線部㉔に関連して、働くことや職業を選択することは経済的な自立だけでなく、青年期においては自立した人格の形成にとって重要な役割を果たす。職業選択に関する次の具体例ア～ウと、それぞれの例にあてはまる人格形成に関する記述A～Cの組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

3

ア 私は、就職活動では自分の適性や長所を理解し、自己アピールができるように取り組んできた。しかし、不採用の経験が重なって、自分の価値が分からなくなり、社会から孤立しているように感じてしまう。

イ 私は、関心をもった職業について幅広く調べるだけでなく、現実にその職業と関わる^かため、就業体験にも行ってみた。そうしたなかで、生涯にわたって打ち込める仕事をじっくり探すことが大切だと考えるようになった。

ウ 私は、仕事の内容は問わず、自分が生活していける収入と安定した身分が保証されることを優先して職に就いた。ただ、最近仕事に慣れてきて、自分の働きぶりを上司や同僚から認めてもらいたいと思うようになった。

- A オルポートが挙げた、成熟した人格の特徴。
- B マズローの理論における、欲求の階層構造。
- C エリクソンが述べた、自我同一性の拡散。

- ① アーA イーB ウーC
- ② アーA イーC ウーB
- ③ アーB イーA ウーC
- ④ アーB イーC ウーA
- ⑤ アーC イーA ウーB
- ⑥ アーC イーB ウーA

倫 理

問 7 下線部㉔に関連して、次のア～ウは環境問題への取組に関する説明である。
その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

7

ア 1997年に開かれた地球温暖化防止京都会議では、京都議定書が締結され、先進国だけに温室効果ガスの排出量削減目標が定められた。

イ アメリカの海洋生物学者カーソンは、『奪われし未来』のなかで、農薬など有害な化学物質の大量使用が、生態系の破壊につながると警鐘を鳴らした。

ウ 1992年に開催された地球サミットでは、宇宙船地球号という考え方によって、地球環境の持続性を損なわない範囲内での経済開発が提唱された。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

倫 理

問 8 下線部①に関して、二つの欲求が対立し選択に迷う状況を葛藤^{かつとう}という。葛藤状況に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① レヴィンは、一つの対象に接近したい欲求と回避したい欲求を同時に抱く状況において、どちらを選択するか葛藤する人間を、境界人と表現した。
- ② シュプランガーは、青年期には内向型の価値と外向型の価値とが葛藤を起こし、その解決を通して自己形成に至るとする、性格の類型論を提起した。
- ③ 防衛機制とは、葛藤や欲求不満に対する心の反応で、抑圧や退行などが原因となって心の安定が乱され、不安や緊張に陥ることである。
- ④ ヤマアラシのジレンマとは、相手に接近したい気持ちと、お互いが傷つくことへの恐れとが葛藤を起こし、適度な距離を見いだしにくい状況を表す。

倫 理

問 9 下線部①に関連して、異文化理解に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① 自分が慣れ親しんだ文化とは異なった文化に出会ったときに心に生じる違和感や衝撃は、カウンター・カルチャーと呼ばれる。
- ② 少数派の文化を、多数派の文化のなかに同化・吸収させる、ノーマライゼーションの考え方が、文化統合においては尊重される。
- ③ 自民族と他の民族の文化や価値観の違いを積極的に認め、互いに尊重し合おうとする考え方は、パターンリズムと呼ばれる。
- ④ 文化の異なる人々に接するとき、決まり切った考え方やイメージの枠組みであるステレオタイプに当てはめて相手を判断しがちである。

問10 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① Aは、現在の市場競争のルールでは、環境を保護する仕組みなどが整っていない点に問題があるため、市場とは別の仕組みが必要だと考えている。他方Bは、そうした問題を解決するには、生産者の暮らしにも配慮した持続的な援助ができるように寄付する仕組みが必要だと考えている。
- ② Bは、フェアトレードが、コーヒー農家への支援を持続的なものにするだけでなく、価格競争を通して公正を実現する点で寄付よりも優れていると考えている。他方Aは、環境問題などの市場競争によって生じる問題に対処するには、経済的自立につながる寄付がまず必要だと考えている。
- ③ Aは、生産者の暮らしや環境への配慮の必要性は認めながらも、市場競争のルールを守ることが、貿易の公正さの条件だと考えている。他方Bは、持続性に配慮した援助によって生産者の生活を改善すべきであり、そのためには消費者が、商品の選び方を見直す必要があると考えている。
- ④ Bは、消費者が商品を選択する際に、フェアトレード商品を選ぶようになれば、生産者の暮らしを改善することができると考えている。その考え方に懐疑的なAは、そうした問題に対処するには、市場経済を発展させることにより、社会全体の富を増やすことが必要だと考えている。

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

人が生きるうえで、様々な㉔欲望をある程度満たしていくことは必要である。しかし、欲望に囚われてしまうことは、昔からしばしば戒められてきた。では、なぜ欲望に囚われてはならないのか、先哲の教えに尋ねてみよう。

まず、先哲は、欲望に囚われてしまうと、人としての理想的な生が送れなくなると教えている。例えば、プラトンは、魂は肉体に閉じ込められていると考え、肉体的欲望に支配されると破滅に至ると主張したが、それは㉕魂の指導的部分である理性に従った、知を愛する生き方こそ理想であるとみなしたからであった。また、㉖イスラーム教では、神の命令に背いて欲望のままに生きる者は、来世で重い罰を受けると説かれたが、それは神に従って生きることこそが人間の理想的な生き方であり、天国に至る道であるとされたからであった。さらに、㉗荘子は、金銭欲や名誉欲などに囚われた人々を批判したが、その背景には、執着を捨てることで、人間が設けた価値的区別から解放された本来の世界が開かれ、自由な生が実現されるという考え方があった。このように、欲望を制することは、よく生きるうえで不可欠なこととみなされてきた。

欲望の抑制は、自分がよく生きようというだけでなく、㉘他者を隔たりなく受け止めようという思いともつながっている。例えば、見返りを求めて他者に善行を行うことが㉙キリスト教で批判されるのは、自らの欲望に左右されず、あらゆる者を分け隔てなく愛すべきとされているからである。また、ブッダは、人は無知ゆえに自分や所有物に囚われ苦悩するとして、㉚正しい実践により一切の迷いを離れる道を示したが、その道に従う者は、自らが完全な安らぎの境地に至るだけでなく他者への深い慈しみにもめざめるとされた。そうした慈悲の重要性は、後の㉛大乘仏教で一層強調されることになる。自己中心的な欲望を離れることで、自他の隔たりをも超える隣人愛や利他的実践が実現されると考えられてきた。

先哲は、欲望の問題を、生きるうえでの中心的課題の一つと捉えたうえで、過剰な欲望や自己への囚われを離れ、自分のあり方や他者との関係を、より深い次元で見いだすべきと教えている。欲望に囚われ苦しいとき、いったん立ち止まって自分を見つめ直すと、新たな境地が開けるのではないだろうか。

問 1 下線部②に関連して、欲望に関するアリストテレスの考え方の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① 欲望を理性に従わせるためには、理性がそう命じるだけでは不十分であり、実際に欲望を抑制できるような性格の形成が必要である。
- ② 魂の理性的部分がアイデアを観想してさえいれば、そのような魂は自らの欲望的部分を制御することができる。
- ③ 魂の平安のために、空腹を満たすことなどへの自然に必要な欲望だけを持ち、贅沢や権力などへの空しい欲望は捨てるべきである。
- ④ 中庸の態度を保ちつつ生きるためには、禁欲的な生活を通じて欲望を排除し、魂を浄化することが必要である。

倫 理

問 2 下線部①に関連して、理性に従った生き方を主張したストア派について述べた次の文章を読み、文章中の **a** ・ **b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。 **12**

紀元前3世紀に **a** によって創始されたストア派は、宇宙は万物の根源が自らの理法に従って自己展開したものであるから、宇宙の一部である人間も、理性に従うことで理法と一致した生き方をすべきであると主張した。また、彼らはそのような考え方にに基づき、社会のあり方についても言及し、**b** を唱えた。

- ① a セネカ b 世界市民主義
- ② a セネカ b 社会有機体説
- ③ a セネカ b 配分的正義
- ④ a キケロ b 世界市民主義
- ⑤ a キケロ b 社会有機体説
- ⑥ a キケロ b 配分的正義
- ⑦ a ゼノン b 世界市民主義
- ⑧ a ゼノン b 社会有機体説
- ⑨ a ゼノン b 配分的正義

問 3 下線部㉔に関して、イスラーム教の教えに関する記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① アッラーはムハンマドの死後も、新たな啓示をカリフに伝え、それを記録したものがクルアーン(コーラン)とされる。
- ② アッラーの定めた戒律は、神と人間との関係、および人間同士の関係の両方を規定しており、結婚や遺産相続にまで及んでいる。
- ③ イエスは神の子であると信じるキリスト教を批判して、三位一体説を認めず、唯一神への信仰を説いている。
- ④ メッカのカーバ神殿への巡礼は、ムスリムに課せられた務めの一つであり、巡礼月には世界各地から巡礼者が集まってくる。

問 4 下線部㉑に関して、荘子の思想を、儒家の思想と比較して説明した文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 過不足のない、調和のとれた中庸の状態を維持することを目指す儒家とは異なり、「心齋坐忘」を唱え、足を組んで座り、心を統一して、宇宙を支配する絶対神と一体となるべきと説いた。
- ② 儒家が、礼に従って家から国、そして天下へと社会の秩序を実現していこうとするのとは異なり、「小国寡民」を唱え、小さな共同体のなかで、何ものにも拘束されることなく質素に生きるべきと説いた。
- ③ 親に対する孝や、兄に対する悌を基礎とする道徳を重視した生き方を説いた儒家とは異なり、「万物斉同」を唱え、道徳的な判断や、あれやこれやといった物事の区別も相対的なものにすぎないと説いた。
- ④ 儒家が、身近な者に対する仁愛を他者に押し広げていくべきと説いたのとは異なり、「逍遙遊」を唱え、他者との関係を断ち、天地の間に充満する浩然の気を養い、安楽に生きるべきと説いた。

倫 理

問 5 下線部㉔に関連して、他者との関係性について説かれた様々な教えや思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 荀子は、人は欲望に従って行動する傾向があり、そのままでは他者と争うことになるため、法律によって欲望を制御すべきと説いた。
- ② イスラーム教では、「すべてのムスリムはみな兄弟である」とされ、民族に関係なくイスラーム教の教えに従う者は平等であると説かれた。
- ③ 仏教では、人間は愛するものといつか必ず別れねばならないという苦しみを有しており、それが四苦の一つであると説かれた。
- ④ エンペドクレスは、知識を他者に教え込むのではなく、問答法によって、他者が自ら真の知へ向かうのを助けることが重要であると説いた。

倫 理

問 6 下線部①に関して、次のア～ウは、キリスト教における、人間の欲望についての考え方である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 16

ア パウロは、分かっているが欲望のために悪を行ってしまう人間のあり方に悩み、そこからの救済は福音への信仰によるほかにないと考えた。

イ アウグスティヌスは、生まれつき人間にそなわっている自由意志により、欲望から悪を犯してしまう傾向を克服できると考えた。

ウ イエスは、欲望を抱いて女を見る者は、心のなかで既に^{かんいん}姦淫をしていると述べ、情欲を克服した善き人だけが、他者を裁くことができると主張した。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問 7 下線部②に関して、ブッダの示した修行方法である八正道についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 「正語」とは、ブッダの語った言葉を正しく記憶することである。
- ② 「正見」とは、清らかで正しい生活を送ることである。
- ③ 「正精進」とは、肉食を避け正しく食事を取るることである。
- ④ 「正定」とは、正しい^{めいそう}瞑想を行い精神を統一することである。

倫 理

問 8 下線部①に関して、次の文章は、大乘仏教における「菩薩」の行うべき実践についてブツダが説いたとされているものである。ここで述べられていることについて、大乘仏教の思想を踏まえて説明した文章として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

この部分につきましては、著作権
処理中の為、現在公開できません。

- ① 菩薩はまだ仏ではないため、衆生の固定的実体をすべては把握できない。それゆえ、菩薩は、衆生を導く働きを放棄し、自分の悟りの完成を目指して努力すべきである。
- ② すべての衆生は、いかなる固定的実体ももってはいない。そのことを理解したうえで、菩薩は、導く自分にも導かれる衆生にも執着することなく、衆生を涅槃へと導くべきである。
- ③ 菩薩はまだ仏ではないため、衆生の固定的実体をすべては把握できない。それゆえ、菩薩は、まずは自分にとって身近な衆生から徐々に涅槃へと導くよう努力すべきである。
- ④ すべての衆生は、いかなる固定的実体ももってはいない。そのことを理解したうえで、菩薩は、まずは自分が悟りを開き仏となり、その後、衆生を涅槃へと導くべきである。

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 欲望を満たすことは必要な場合もあるが、欲望に囚われてしまうと、どれだけ満たしても欠乏感を抱くようになる。また、次第に自己中心的になり、周囲のことが見えなくなるので、欲望を断つよう努めるだけでなく、他者と積極的に交流して相互理解を深め、社会全体の利益を模索すべきである。
- ② 人は生まれながらにして欲望を有しているが、欲望に囚われてしまうと、自然の法則に調和した生き方が損なわれてしまう。また、自分の欲望ばかりを満たそうとすると他者に迷惑を及ぼす可能性があるため、欲望に従って行動してもよいが、他者の理解を得るよう努める必要がある。
- ③ 欲望を満たすことは必要な場合もあるが、欲望に囚われてしまうと、生きるうえでの本質的なことや、本来よりどころとすべきものを見失ってしまう。また、自分の利得を優先していると他者への深い思いやりにめざめることもないので、必要以上に欲望を抱くことのないよう注意すべきである。
- ④ 人は生まれながらにして欲望を有しているが、欲望に囚われてしまうと、人生における本質的なことを見失い、様々な災いに直面する。また、利害をめぐって他者と対立することにもなるので、人は禁欲を基本とし、他者との^{かか}関わりもなるべく控えるような^{いんとう}隠遁的生活を目指す必要がある。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

自然は私たちに対して、様々な顔をみせる。雨や日の光は作物を豊かに^{はぐく}育み、大雨や大風は私たちの生命を脅かす。日本において先人たちは、自然をどのように^{とら}捉え、人間と自然との^{かか}関わりをどのように考えてきたのだろうか。

古代において天災や飢饉^{ききん}は、㉑神のあらわれとして捉えられていた。人々は、自然を^{おそ}畏れ敬い、神として^{まつ}祀ることによって、自然の荒々しい力が和らぎ^{ほうじょう}豊穰がもたらされることを願っていた。その後仏教が伝来すると、自然は人間と同様に仏と成る可能性をもつ存在であるという見方がもたらされ、㉒天台宗では、草木の成仏に関する議論が積み重ねられた。こうした思想は、㉓文芸や芸術にも影響を与え、成仏を願う草木の精と僧との対話を描いた能などが作られた。人々は、自然を神として、またともに仏と成る存在として、敬い尊重していたと言えよう。

近世になると儒学者たちは、自然は人間をも包み込む大いなる秩序であり、㉔万物を生み育てていると考えた。人間の営みも自然の秩序の一部であり、それゆえ、他者に対する仁愛の徳の実践も、万物を育み慈しむ天地自然の働きへの参与であると考えられた。また、㉕二宮尊徳は、農業という営みを通じて、天地自然を貫く法則と人間の営みとの関係について考察した。彼らは、万物を包む天地自然の働きを踏まえ、㉖人間として望ましい行いについて探究したのである。そうした思想からは、自然の大いなる働きに対する敬いの気持ちが読み取れるだろう。

明治時代になると、西洋を手本とした文明化が目指され、近代科学の移入が進められた。そうしたなかで、㉗人間は自然を対象化し支配する能力をもつ存在であり、自然は人間が開発する対象であるという考え方が強まり、自然に対する敬意は薄れていった。こうした態度が、現在の自然観につながっている。宮沢賢治もまた、㉘冷害や^{かんぱつ}旱魃に苦しむ人々を救うために、科学的な知識を利用しようとしたが、一方で、自然を単なる資源とみなすことに対して疑問を抱いていた。彼は、自然と人間を含めた世界全体が幸福になる道を模索し、苦悩し続けたのである。

先人たちの思索からは、現在とは異なる自然との関わり方を学ぶことができる。それらを手がかりとして、私たちは、現在の自然観の問題点について考え、今後どのように自然と関わっていくべきか、問い直してみてもはどうだろうか。

倫 理

問 1 下線部②に関して、次の文章は、仏教伝来後に生じた、神の捉え方の変化についての記述である。 ・ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

神に対する信仰は、仏に対する信仰と融合し、神の前で が行われるようになった。その理由は、神も人間と同じように苦しんでおり、神自身が、苦しみから脱することを願っているからである、と説明されている。さらに、平安時代になると、神は仏の仮の姿であるとする が生まれている。

- ① a 祓い(祓え) b 権現思想
- ② a 祓い(祓え) b 御霊信仰
- ③ a 読 経 b 権現思想
- ④ a 読 経 b 御霊信仰

問 2 下線部①に関して、天台宗の僧侶であった源信の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 諸国を旅し、井戸や池を掘り、阿弥陀仏の名をとねえながら野原に遺棄された死者を火葬して歩き、阿弥陀聖と呼ばれた。
- ② 日本において往生を遂げたとされる人物の伝記を集め、『日本往生極楽記』を著し、後世の往生伝や説話集に、大きな影響を及ぼした。
- ③ 念仏をとねえれば誰でも往生することができる^{だれ}と説き、行き合う人々に念仏札を配りながら諸国を遊行し、捨聖と呼ばれた。
- ④ 極楽浄土や地獄について述べた書物を著し、浄土に往生するためには、阿弥陀仏の姿を心に思い描く必要があると説いた。

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、次のア～ウは、文芸や芸術の分野で、美について思索した人物について説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 22

ア 吉田兼好は、『徒然草』を著し、今にも花が咲きそうな梢^{こずえ}や、花が散った後の庭に、見所があると述べ、世の中は無常であるがゆえに、「あはれ」があるのだと主張した。

イ 世阿弥が大成した能楽は、「幽玄」を理念としていた。世阿弥は、『風姿花伝』(『花伝書』)を著し、演技者が目指すべき有り様を「花」に譬^{たと}えながら、演技者としての心得を説いた。

ウ 千利休が大成した茶道では、「わび」の精神が重んじられた。「わび」とは、華麗なものにも簡素なものにも、ひとしく無常と美を見いだし、そこに安らぎを覚えようとする精神のことである。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問 4 下線部㉔に関連して、儒学者たちが、人間は万物のなかで最も優れた存在であると説いたことに反対して、人間は「万物の悪^あしきもの」であると述べた賀茂真淵の著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 『国意考』
- ② 『都鄙問答』
- ③ 『万葉代匠記』
- ④ 『自然真営道』

問 5 下線部㉔に関して、二宮尊徳の思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 動物は、春には草を秋には木の実を食物とするほかはないが、人間は、一年中米を食べることができる。これは、人間の努力の結果であるので、人間は、天地の恩ではなく、他者の恩を自覚すべきである。
- ② 動物は、目の前にある食物を満足するまで食べてしまうが、人間は、今年のものを来年に残すことができる。これが人間の特徴であり、人間は、将来にそなえて貯蓄し、その蓄えによって他者に貢献すべきである。
- ③ 植物は、天地自然の働きによって成長するが、農業を営む人間にとって、雑草の成長は都合が悪いものである。しかし、人間は、天地の恩を思い、雑草を含めたすべての生命を慈しみ尊重すべきである。
- ④ 植物は、天地自然の働きによって、葉を茂らせ根を広げるが、これは、自らの欲望を自由にあらわした姿である。だから、人間は、植物を見習い、常に自らの願望を満たすように生きるべきである。

倫 理

問 6 下線部㊦に関して、次のア～ウは、人間として望ましい行いについて説いた江戸時代の思想家の説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 25

ア 徳川方の武士として軍功をたて、後に禅僧となった。武士・農民・職人・商人のいずれも、自らの生業を通じて仏と成ることができると説き、商人は、売買の営みを、天道から与えられた役目として受けとめ、正直を旨として商いに励むべきであると述べた。

イ 中江藤樹のもとで儒学を学んだ。そして、「治国平天下」という儒学の理念を、現実との関わりの中かで考え、例えば、樹木を切り尽くすと山の保水力が乏しくなり水害が起こりやすくなるので、山林を保護すべきであると主張した。

ウ 独学で、神道・仏教・儒教を学び、自らの商人としての体験を踏まえ、人の道について考察した。儉約と正直に基づいた、商いによる利益の追求を、天理にかなう正当な行為であるとし、儉約と正直という徳は、すべての人が守るべき道であると説いた。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 石田梅岩 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 鈴木正三 |
| ② | ア | 石田梅岩 | イ | 鈴木正三 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ③ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 石田梅岩 | ウ | 鈴木正三 |
| ④ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 鈴木正三 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑤ | ア | 鈴木正三 | イ | 石田梅岩 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ⑥ | ア | 鈴木正三 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 石田梅岩 |

問 7 下線部㉔に関連して、このような状況のなかで、自然との関わり方について考察した人物として、南方熊楠があげられる。南方熊楠の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 村落共同体を生きる人々の生活に注目し、民俗学を創始した。人々にとって山は先祖の霊が帰る場所であり、人々は、ときを定めて先祖の霊と交流することができると思っていた、と説き、村落共同体の景観と信仰との関係について考察を進めた。
- ② 明治政府によって神社合祀令が出されたときに、古い社や鎮守の森が破壊されるとして反対運動を起こした。鎮守の森は、人々の信仰心や共同性を育むものとして必要であるとともに、生態学の研究対象としても重要であると主張した。
- ③ 歌人として活躍するとともに、古くからの神のあり方について研究を進めた。神の原型は、海のかなたにある常世国から定期的に村落を訪れる「まれびと」であり、人々は海のかなたに理想的な世界を思い描いていた、と説いた。
- ④ 明治時代後半に足尾鉍毒事件が起こったとき、農民の側に立って反対運動を行った。鉍毒が川に流れ込むことによって魚が死に田畑が荒れていくなかで、人々の生活と自然との強い結び付きを見だし、「民を殺すは国家を殺すなり」と訴えた。

倫 理

- 問 8 下線部①に関連して、次の文章は、和辻哲郎が、「風土」として捉えた自然について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、和辻哲郎の思想を踏まえて、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

このような自己了解(風土における自己了解)は、寒さ暑さを感じず「主観」としての「我れ」を理解することではない。……寒さを感じずる時には我々は体を引きしめる、着物を着る、火鉢のそばによる。否、それよりもさらに強い関心をもって子供に着物を着せ、老人を火のそばへ押しやる。あるいは着物や炭を買い得るために労働する。炭屋は山で炭をやき、織布工場は反物を製造する。すなわち寒さとの「かかわり」においては、我々は寒さをふせぐさまぎまの手段に個人的・社会的に入り込んで行くのである。……同様なことは炎暑についても、あるいは暴風・洪水のごとき災害についても言えるであろう。我々はこれらのいわゆる「自然の暴威」とのかかわりにおいてまず迅速にそれを防ぐ共同の手段に入り込んで行く。風土における自己了解はまさしくかかる手段の発見としてあらわれるのであって、「主観」を理解することではない。

(『風土』より)

- ① 私たちは、寒さを感じるときには孤立感を、自然の暴威に立ち向かうときには他者との一体感を感じる。私たちは、風土において、自らの身を犠牲にして間柄的存在として振舞うことを学ぶのである。
- ② 私たちは、寒さ暑さや暴風・洪水をもたらす自然に対して、対抗する手段をもっていない。私たちは、他者ととも風土と関わることを通じて、我々が、忍従的かつ受容的な存在であることを了解するのである。
- ③ 私たちは、寒さ暑さや暴風・洪水をもたらす自然に対して、主観的な立場から対抗策を考えることはできない。私たちは、他者ととも風土と関わることを通じて、自然を客観的に捉えることを学ぶのである。
- ④ 私たちは、寒さを感じるときに、個人的に対策を講じるだけでなく、他者と一緒に寒さを防いでいく。私たちは、風土において、自らが、個人であるとともに共同して生きる存在であることを了解するのである。

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 日本における人間と自然の関係をたどってみると、人間を自然の一部であると考えることによって、自然に対する依存心が形成されたことが分かる。今後私たちは、伝統的な自然観がもたらした環境破壊の事例に学び、自然を敬う心を養う方法について考察していくべきだろう。
- ② 日本における自然観の変化をみていくと、人間は、自然を何らかの法則によって捉えるという営みを通じて、自然を敬う態度を育んできたことが分かる。今後私たちは、自然を客観的に把握するという試みをさらに進め、現在の自然観を広く普及させることを目指すべきだろう。
- ③ 日本における人間と自然の関係をたどってみると、様々なかたちで育まれてきた、自然を敬い尊重する姿勢が、近代以降は見失われる傾向にあることが分かる。今後私たちは、近代的な自然観の問題点について検討し、自然との望ましい関わり方について考察していくべきだろう。
- ④ 日本における自然観の変化をみていくと、それぞれの時代の自然観は、仏教や儒学など外来の文化を尊重し、自国の文化を批判することを通じて形成されてきたことが分かる。今後私たちは、過去の自然観を批判し、新しい時代に適合した自然観を確立していくことを目指すべきだろう。

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

私たちは、何か新しいことを考え、新しいものを作ろうとするとき、想像力を働かせる。そこから思いがけない発想やイメージが生まれることもある。西洋の近代思想や芸術活動のなかに、想像力の働きとその捉え方をみてみよう。

ルネサンス時代に入ると、㉔芸術家は、キリスト教に^{かか}関わる伝統的テーマを、遠近法などの新たな技法を用い、従来と異なる構図や色彩で描くようになった。こうした㉕世界の新たな表現に、想像力が貢献したことは間違いのないであろうが、芸術家自身は、観察に基づく自然の模倣を重視し、想像力に特に注目はしていなかった。一方、哲学者は、想像力について様々に考察したが、㉖パスカルが「誤りと偽りの主」と批判したように、真理の追究に必要となる理性に対して、想像力は^{こびゆう}誤謬や単なる空想をもたらすものとみなされることが多かった。

しかし、18世紀になると、理性的な人間観が強調される一方で、それにとどまらない人間のあり方も自覚されるようになり、想像力への関心も高まった。例えば、ヒュームは、想像力が、原因と結果を結び付けたり、遠くの他者を思い描いて共感したりする働きであると主張した。さらに、㉗カントは、認識することは対象の模写ではなく構成であるとし、その際に働く想像力の生産的な作用に注目した。その後、㉘ゲーテやシラーらの芸術運動に影響を受けたロマン主義者は、新たなイメージを作り出す創造的能力として想像力を高く評価し、その産物である芸術を人間精神の最高の表現とみなして、創造性を重視する人間観をもたらした。

想像力の働きは美の創造にとどまらない。社会的実践では、18世紀末から、フーリエらが、理想的共同体を構想して、労働者の環境改善を試み、㉙後の社会主義運動に影響を与えた。彼らの試みは、理性による分析とともに、想像力の働きにより、㉚現実と異なる理想を構想したものと言えよう。後に㉛サルトルが考察したように、想像力はいったん現実から離れることで、理想を思い描いたり、現実を批判したりする可能性をもたらすのである。芸術活動も現実社会と無縁ではなく、例えば、ピカソの「ゲルニカ」には、想像力を駆使した象徴的表現のなかに、スペイン内戦時のナチスの爆撃への強い批判が込められている。

このように、A。

倫 理

問 1 下線部㉔に関連して、レオナルド・ダ・ヴィンチに代表される、ルネサンス時代の理想の人間像として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 道具を使ってものを作り出していく工作人
- ② 天地自然と一体となって生きていく真人
- ③ あらゆる分野で才能を発揮する万能人
- ④ 主体的に生きて自ら価値を創造する超人

問 2 下線部㉕に関連して、トマス・モアは、架空の島を舞台とした『ユートピア』を著したが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 国家の干渉を批判し、個人が自らの利益を追求することが社会全体の繁栄につながると主張している。
- ② 現実に対応できない統治者を批判し、国家の統治のためには道徳に反した行いも許されると主張している。
- ③ 土地所有者が農地の囲い込みをしている社会を批判し、私有財産制のない社会のあり方を示している。
- ④ 互いに争う人々を批判し、『旧約聖書』の怪物に譬えられる強大な権力をもった国家による支配を正当なものとして示している。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、パスカルの思想の説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

31

- ① 人間には外的なものから受ける影響で様々な情念が生じるが、人間は、自らの意志によってそれらの情念を支配し、自分の行動を決定していくことができる高邁の精神をもつと考えた。
- ② 考えることに人間の尊厳を見だし、特に、人間のあり方や事柄の本質を捉えるためには、推理や論証を行う能力だけではなく、直観的に物事を把握する能力が必要であるとした。
- ③ 人間にはその本性や感覚によって誤謬や錯覚が生じるが、実験と観察を通じて得られた知識によって、それらを取り除き、自然の一般的な法則を捉えることで、自然を支配できると考えた。
- ④ 自己自身を形成することに人間の尊厳を見だし、特に、人間が自分の生き方を選択し、自らの存在のあり方を決定するためには、各自の自由意志が必要であるとした。

倫 理

問 4 下線部④に関して、カントの著作について述べた次の文を読み、・に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

カントは、『実践理性批判』において、「繰り返し長く考えれば考えるほど、常に新たな感嘆と崇敬をもって心を満たすもの」として、「私の上なる星空と、私の内なる」の二つをあげているが、『』では、自然美や芸術を考察の対象として取り上げ、それらに関わる想像力(構想力)の自由な働きを分析している。

- ① a 自然法 b 弁証法的理性批判
- ② a 自然法 b 判断力批判
- ③ a 道徳法則 b 弁証法的理性批判
- ④ a 道徳法則 b 判断力批判

倫理

問 5 下線部㊸に関して、次の文章は、自然と人間との関わりを重視したゲーテが、創作活動について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 33

美しいものは、世界のなかで孤立していることがしばしばある。しかし、いろいろの結び付きを発見し、それによって芸術作品を生み出す役を担うのは精神である。たとえば、花は、花を好む昆虫によって、花をしめらす露の玉によって、また花に最後の栄養を与えることもある花瓶によって、はじめて魅力をそなえるようになる。どんな藪やぶでも、どんな木でも、岩や泉がそばにあれば意味が生じ、適当な距離をおくだけで魅力が増す。人間の姿にしても、どんな種類の動物にしても、事情は同じである。

(『箴言しんげんと省察』より)

- ① 芸術家は芸術作品を生み出すに際して、自然の事物をよく観察し、常に科学的な視点をもって、それぞれの事物を分析することで、その構成要素を解明しなければならない。
- ② 自然において美しいものは個別に存在しているが、芸術家は、自然のあり方に反するものであっても、それらを結び付けることで作品を生み出すことができる。
- ③ 芸術家は芸術作品を生み出すに際して、自ら動ける動物と、自らは動くことのできない植物や自然の事物をきちんと区別し、それぞれの関係を捉えなければならない。
- ④ 自然において美しいものは個別に存在するように見えるが、芸術家は、自然の有り様に従って、事物の相互の結び付きを見いだすことで、作品を生み出すことができる。

問 6 下線部①に関連して、マルクスとエンゲルスの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 資本主義社会においては、土地や工場など生産活動に必要なものをもつ人々と、そこで働くだけの人々との関係が、政治や芸術など人間の精神的な営みを規定すると考えた。
- ② 社会は個人をすべて合わせたものなので、社会の幸福を最も大きくするためには、最も多くの個人ができるだけ幸福になる必要があり、その目的の達成が社会の改革の基準となると考えた。
- ③ 世界は、絶対精神が自ら現実のものとなることによって展開していくのであり、労働者や資本家の意識や、その両者の関係は、絶対精神が客観的に実現されたものであると考えた。
- ④ いかなる状況にあっても人間は相互に助け合わなければならないので、主に資本家の善意に基づき、人間が平等に扱われる理想的な共同体を作り出すことで、幸福な社会が実現すると考えた。

倫 理

問 7 下線部㉔に関連して、次のア～ウは、現実と理想をめぐる、様々な思想家の考え方を説明したものであるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 35

ア 所有権も貧富の差も存在しない自然状態を理想とし、人々が金銭や名声を追い求める文明社会のあり方を批判する視点から、^{せんぼう}羨望や^{しつと}嫉妬に満ちた当時の社会を自然状態からの墮落であると論じた。

イ 真の信仰を問う視点から、人間は神の前の単独者として存在している事実を見据えるべきとし、平均化・画一化した当時の社会のなかで、人々が本来の自己のあり方を見失い、^{ぎまん}欺瞞的に生きていると批判した。

ウ 知性を創造的なものとみなす視点から、知性により社会が改善され、個人と社会が調和し、多様な価値が認められる民主主義社会が実現することを理想とし、教育が既成の価値観の単なる伝達となることを批判した。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|---|--------|
| ① | ア | キルケゴール | イ | ルソー | ウ | ハーバーマス |
| ② | ア | キルケゴール | イ | ルソー | ウ | デューイ |
| ③ | ア | ハーバーマス | イ | デューイ | ウ | キルケゴール |
| ④ | ア | ハーバーマス | イ | デューイ | ウ | ルソー |
| ⑤ | ア | ルソー | イ | キルケゴール | ウ | デューイ |
| ⑥ | ア | ルソー | イ | ハーバーマス | ウ | キルケゴール |
| ⑦ | ア | デューイ | イ | キルケゴール | ウ | ハーバーマス |
| ⑧ | ア | デューイ | イ | ハーバーマス | ウ | ルソー |

問 8 下線部①に関連して、次の文章は、サルトルとカミュの作品と思想とを説明したものである。□ a □ ~ □ c □ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 □ 36 □

『□ a □』のなかで、主人公が公園のマロニエの木を見て、存在の偶然性を発見する場面を描いたサルトルは、第二次世界大戦後、人間について、□ b □ のあり方を示した。一方、カミュは、『シーシュポスの神話』のなかで、山の上から転げ落ちる岩を運び上げることを無限に反復するシーシュポスの姿を描き、人間の生が□ c □ であることを示し、そのなかで生き続けることを人間の運命とした。

- | | | | |
|---|--------|------------|-------|
| ① | a 嘔吐 | b 本質に先立つ実存 | c 不条理 |
| ② | a 嘔吐 | b 本質に先立つ実存 | c 苦行 |
| ③ | a 嘔吐 | b 実存に先立つ本質 | c 不条理 |
| ④ | a 嘔吐 | b 実存に先立つ本質 | c 苦行 |
| ⑤ | a 第二の性 | b 本質に先立つ実存 | c 不条理 |
| ⑥ | a 第二の性 | b 本質に先立つ実存 | c 苦行 |
| ⑦ | a 第二の性 | b 実存に先立つ本質 | c 不条理 |
| ⑧ | a 第二の性 | b 実存に先立つ本質 | c 苦行 |

倫 理

問 9 本文の趣旨を踏まえて、Aに入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。37

- ① 想像力は、芸術家が創造的な活動をする際には役立つ能力であるが、時に誤りや空想をもたらすことがあり、社会的な問題を解決することには貢献できない。したがって、想像力を有効に働かせ、創造性を高めるためには、それを芸術的な活動を中心にして用いることが必要であると言えよう
- ② 想像力は、時に誤りや空想をもたらすとして批判されるが、芸術作品の創造だけでなく、現実への働きかけにも貢献するものである。人間は、想像力により、一度現実から距離を取ることで、現実とは異なるものを思い描き、現実に対して創造的に関わるができるようになると言えよう
- ③ 想像力は、芸術家が創造的な活動をする際には役立つ能力であるが、時に誤りや空想をもたらすことがあり、現実の問題においてそれを用いると、社会を混乱に導く可能性がある。したがって、想像力は、現実の社会においては、理性の助けを借りなければ役立つものではないと言えよう
- ④ 想像力は、時に誤りや空想をもたらすとして批判されるが、様々な現実的な問題から離れて、理想を描き出すことを可能にするものである。人間は、いかに過酷な現実にあっても、想像力によりそこから離れて、理想の世界のなかで生を営むことができるようになると言えよう

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。

学校選びのことなら

JS日本の学校[®]

<http://www.js88.com>

塾選びのことなら

JS日本の塾[®]

<http://jyuku.js88.com>